水鳥の　行くも帰るも　跡たえて
　されども路は　わすれざりけり

水鳥たちが水面（みなも）をあちらに行ったりこちらに来たり、何の心配もないかのようにのどかに泳いでいます。

忙しい毎日の生活を送っている私たちの心に、水鳥たちの行動はどの様にうつるでしょう。

あなたはどうですか？

「なんてのどかな光景でしょう。私も水鳥みたいに、のんびりと、水の上を泳いでいたいな」

と思われる方もいるでしょう。

「あの水鳥の行ったり来たりの動きは、誰かさんにそっくり」

と思われる方もいるでしょう。

しかし、このように、なんのくったくもなくのどかに泳いでいる水鳥たちも、その足で一生懸命水をかき、周囲に気を配り、ひたむきに自分の向かうべき道を進んでいるのであります。

私たちは日々忙しい生活の中においても、一日一日を大切に、感謝の念と慈愛の心をもち生活しております。しかし、忙しさのあまりついつい自分の生きるべき方向、進むべき道を見失いがちです。

自由に、しかも自らの生き方を全うしている水鳥の姿にならい、自分自身を見直してみてはいかがでしょうか。

水鳥の
行くも帰るも
跡たえて
されども路は
わすれざりけり
傘松道詠

解説

道元禅師は折にふれ、たくさんの和歌を詠まれています。それらは『傘松道詠』という歌集にまとめられて親しまれてきました。

その歌には、人間の心情や、自然がたくみに表現され、文学作品としても高い評価を受けてきました。

また一方では、仏の教えを端的に表し、真髄をズバリと指摘する力強さ、厳しさを句外に偲ばせております。

冒頭の句は、白鳥が、また鴨が、またおしどりが、澄寂たる水面を屈託なくのどかに泳ぎまわっている様子を詠んでいます。

水鳥が軽快に、そして爽やかに優游する鮮やかで美しい光景が、当たり前でわざとらしさのない、自由な人間のあり方とその生き方を教えてくれているのです。

曹洞宗
神奈川県第二宗務所
第五教区　布教部・出版部